

エンジョイ！子育て

お父さんも楽しもう！ 職場からの子育て応援

子どもの笑顔はお父さんへの一番の応援。

仕事に忙しい「男性社員」が、きちんと家で「お父さん」ができ、仕事も充実するように、会社ぐるみで子育て支援制度を導入する企業も増えてきました。ちょっとした工夫で、時間と愛情は生み出すことができるようです。さあ、お父さんも笑顔に！

子育て講座「お父さん」に刺激 身近なサポートは社員に「優しめ」 (株)日本ビーエス

「企業人と家庭人の両立」をテーマにした家庭教育講座を今年2月に開催したところ「参加者はほとんどが男性で、再講座をとの声も出ました」というのは、敦賀市の「株日本ビーエス」。「会社人間だけではダメ、家庭があつてこそ仕事ができるので、どちらかに偏ることのないように」という内容は、「お父さん」として内容が、「お父さん社員」として刺激的だったようです。課長代理の真柄邦夫さんもその一人。「仕事と家庭の両立だけではなく、例えば、子どもの目線に立つ」などと具体的なアドバイスもありました。7歳と5歳の子



板谷英樹さん



真柄邦夫さん

どもを持つ真柄さんも、改めて「お父さん」に目覚めた様子です。「講座の最後に質問の時間が取れなかったので、次に開くときには、そのような時間も取りたい」とは総務部人事管理課課長の板谷英樹さん。同社では、妻の出産のとき、お父さんが2日間の有給特別休暇を取れる制度があります。2人のお子さんの誕生に制度を利用した真柄さんも「やはり会社という身近なところにサポート体制があるのはありがたい。ほとんどの「お父さん社員」がこくふつうに利用しているそう。そうした「子育てに優しい」社内環境が生まれきたのは、社

員の意識に加えて会社側の理解も大きいようです。子育てで休む人がいれば周りの社員がカバーし、また会社もサポートを進めやすい制度や研修会を開く。「子育てだけでなく、社員が学校行事や地域活動へ参加することは、人とのつながり、人脈や視野を広げることにつながり、仕事にもプラスになっていると思います」(板谷さん)。子育てを応援することは、広い意味での社員教育でもあるようです。

員が2日間の有給特別休暇を取れる制度があります。2人のお子さんの誕生に制度を利用した真柄さんも「やはり会社という身近なところにサポート体制があるのはありがたい。ほとんどの「お父さん社員」がこくふつうに利用しているそう。そうした「子育てに優しい」社内環境が生まれきたのは、社

子育てに「気持ち」が伝わる職場に

東工シャッター(株)

育児・介護休業法では、3歳未満の子供を養育する労働者には勤務時間の短縮等の措置をとるよう定めていますが、それを小学校就学



上大門知視さん

時までと大幅に拡大させた制度を採用しているのが鯖江市の「東工シャッター(株)」。

実感しましたね」とのこと。人退院時の奥さんの身の回りのこと、役所への届出など、何でもないちょっとしたことであれば、自分切なことがたくさんあります。自分にできることをしてあげること

が奥さんへのサポートにつながっている、実際に感じ取られたようです。共働きが多い福井県。特に、核家族の場合、お母さんに何か事情が起きて頼れる人がいないというケースは少なくありません。「身近にいる人が支えになるのが一番いいと思います」と上大門さん。つまりは、お父さんの役割。同社では、半日単位で有給が取れる半日有給制度を、学校行事や地域の活動に利用している人も多いそう。小学校就学前の子供がいる社員には、5日間の子ども看護休暇を有給としている同社。「休みの後、休み、ありがたいと言いました」との言



窪田健市さん

葉で、また協力してあげたいという気持ちになります。本人も家庭の心配事をクリアすることによって、仕事に集中できているように思います。誰が休んでも、仕事をまわしていきける体制をとることは大事なことです」とは、上大門さんのグループマネージャー、窪田健市さんの言葉でした。



窪田健市さん

3人っ子応援！福井県の子育てサポート

子どもを安心して産み育てることができる環境づくりを目指して、福井県は子育てを支援するさまざまな取り組みを行っています。例えば「すみすみ子育てサポート事業」。保護者が通院、冠婚葬祭や学校行事等により、在宅での子育てが困難な場合に、NPO法人等の団体が一時的に子どもを預かったり、保育所から家までの送迎や家事援助を実施しています。また、病気療養中や回復期の子どもを病院などで一時的に預かる病児デイケアを拡充しています。

今年度スタートしたのは「ふくい3人っ子応援プロジェクト」。3人目以降の子どもについて、生まれる前の妊婦健診費から3歳になるまでの医療、保育にかかる経費を原則無料化。保育所入所児童の保育料、一時預かりサービスの利用料なども無料で、3人以上のお子さんがある家庭を応援しています。

すみすみ子育てサポート事業実施団体

市町名	団体名
福井市	福井市シルバー人材センター
	福井ファミリーサービスクラブ
	県民せいきょう(ハーツきっす羽水)
	きらきらぼし
敦賀市	敦賀市シルバー人材センター
	NPO法人子育てサポートセンターきらきらくらぶ
小浜市	NPO法人わくわくくらぶ
大野市	大野市シルバー人材センター
	NPO法人子育て交流広場ちくたく
勝山市	勝山地域ファミリーサービスクラブ
	勝山市シルバー人材センター
鯖江市	鯖江地域ファミリーサービスクラブ
	県民せいきょう(ハーツきっす武生)
	NPO法人さわやかさばえボランティア虹
あわら市	あわら市社会福祉協議会
	NPO法人よつ葉会福祉サービスひなた
越前市	越前地域ファミリーサービスクラブ
	県民せいきょう(ハーツきっす武生)
	NPO法人子どもセンターピノキオ
	NPO法人今立ファミリーサポートひなたぼっこ
坂井市	県民せいきょう(ハーツきっすはるえ)
越前町	越前町社会福祉協議会

病児デイケア施設

市町名	施設名
福井市	福井県済生会乳児院
	福井総合病院
	福井愛育病院
	大滝病院
敦賀市	さみどり保育園
	中郷西保育園
小浜市	公立小浜病院
大野市	栃木産婦人科医院
勝山市	クリニカ・デ・ふかや
鯖江市	斉藤病院
あわら市	金津産婦人科クリニック
越前市	野尻医院
	花籠保育園
坂井市	春日レディスクリニック
越前町	織田保育所
おおい町	保健・医療・福祉総合施設「なごみ」

※上記内容についてのお問い合わせは、各市町担当課まで。

お父さん、頑張って！

子育てサポート 県内企業の取り組み

お母さんだけでなくお父さんも積極的に子育てに参加するために必要なこと、それは職場の意識改革とサポート体制。なかなか仕事から離れられないお父さんが家庭の中でもきちんと役割を果たすためのサポート制度を採り入れている県内の企業も増えてきています。

やってみて分かった「父親の責任」

育児休業を積極的にサポート 福井信用金庫

女性の育児休業取得率は100パーセントの福井信用金庫ですが、男性の取得は3年前、本店事務部システムIT課の北出貴宏さんが第1号でした。土日を含む10日間の育児休業期間中、生後1ヶ月のお子さんの世話をした北出さん。奥さまは既に職場に復帰したあとで、北出さんは独りでお子さんのすべての世話をしました。自分が責任を持って1日7回の離乳食をあげるとなると、手の空いているときに手伝うのとは大変さが違うことに気づかれたそう。オムツの交換、お風呂などあらゆる身の回りの世話をする育児の大変さ、父親としての責任の重さを感じました。この10日間の経験によって子育てに対する意識が全く変わり、「今まで気づかなかった子どもの体調のさ



さいな変化にも気づくようになりました。奥さんに聞かなくても自分できちんと世話ができるという自信も生まれ、「子どもとの距離も近く感じられるようになりました。お母さんの手伝いではない育児をした経験は、北出さんに責任と自信を与えてくれました。



北出貴宏さん

育児休業中の北出さんの仕事は同僚がカバー。以前から仕事を共有する作業進捗だったため、引き継ぎもスムーズだったそうです。「仕事と生活、いわゆるワークライフバランスは職員にとっても大切です、職員



川島良一さん

一人ひとりにとって働きやすい職場にすることは、企業にとってもメリットです」とは人事部副部長の川島良一さん。福井信用金庫では、「男性の育児参加サポート企業宣言」をし、職場もサポートする、という姿勢を打ち出しているとのこと。「実際に育児休業を取ってみて、母親の大変さ、子育ての責任に初めて気づきました。頭で考えるだけでなく、多くのお父さんたちがもつと実際に育児のための休暇をとっていくとよい」と北出さん。お父さんの子育ては、決してお母さんがいないからではなく、自分の役割だという大きな意識の変化も生んでいるようです。



子どもとの遊び方、教えます

(株)北山建設

仕事と子育ての両立を図るために必要な雇用環境を整備するための「一般事業主行動計画」は、301人以上が働く会社に策定が義務付けられて、300人以下では努力義務とされています。美浜町の建設会社、北山建設がこの計画を策定したのは約2年前。「うちは従業員7名ですが、従業員にこの会社に入ってよかったと思ってもらうためにも、会社の社会的信用をつけ、地域で選ばれるような会社となるためにも取り組みたいと考えました」。家族の支えがあるからこそ仕事を頑張る気持ちが生まれ、力を発揮する原動力となる。そ



北山大志郎さん

れは本人だけでなく会社にとってもプラスだと専務の北山大志郎さんは考えました。

北山建設の「一般事業主行動計画」の中に採り入れられたのは「建設業で働くお父さんのためのバールン教室」というユニークな取り組み。なかなか子どもたちと遊ぶ時間がとれないお父さんのために、バールンで動物などの作り方を覚えてもらい、親子のふれあいを深めるのに役立ててもらおうと開催しました。従業員と、知り合いの業者さん合わせて8人で実施したところとても好評で、建設業で働くほかの仲間にも知ってもらおうと、敦賀、小浜の嶺南だけでなく福井や武生、勝山でも開催。合わせて52社、126人のお父さんたちが参加するほどの催しとなりました。「家で子どもとやってみよう」という



声も多く寄せられ、さらに学んだことを地域の中でも生かそうと、昨年は保育園でバールン遊びも行うほどの広がりとなりました。また、子どもの送迎や子どもの行事のための休暇制度を設けました。送迎休暇は1日2時間ですが、急な病気などで子どもを迎えに行くときに利用してもらおうと有給にしました。職場を空けることになりませんが、北山さんは「仕事はチームワークですから、連携が取れていれば問題ありません。緊急の時に何でも言える職場環境をつくるために、閉鎖的にならないよう心がけています」。この春に卒園、入学を迎えるお子さんを持つ社員もおり、そうした家庭の話も、日常の会話の中で出てくるそう。「従業員数7人という規模で、子育て支援制度をつくるのはハードルが高いですが、おもしろいな、働きやすいなと感じてもらえるようになれば、今は結果が出なくても将来につながっていくのではと考えています」。



父親子育て応援企業 知事表彰

福井県では、男性社員の子育てに配慮し、仕事と家庭を両立できるような職場づくりに取り組んでいる企業を「父親子育て応援企業」として、平成17年度から表彰しています。今年度は5社が表彰され、これまでとあわせて21社となっています。

<受賞企業>

- 小浜信用金庫(小浜市)
- (株)北山建設(美浜町)
- タイヨ一電子(株)(鯖江市)
- 福井県赤十字血液センター(福井市)
- 福井信用金庫(福井市)

<受賞企業の主な取組内容>

- 妻の出産のときや子どもの学校行事に参加するための特別休暇
- 男性の育児休業
- 保育所などへの子どもの送迎にあわせた時間単位での休暇制度
- ノー残業デーの導入による定時退社の推進

(50音順)